

委員の互選により、飯島裕胤委員を会長に決定。
齊藤嘉春委員を会長職務代理者として会長が指名。

(2) 報告

- ・ **水道料金及び下水道使用料 見直しスケジュールについて**
※資料1を基に、総務課より説明。
- ・ **弘前市下水道事業アセットマネジメント概要**
※資料2を基に、総務課より説明。

進行は議長（飯島会長）
各委員との質疑応答等は以下のとおり。

水道料金及び下水道使用料 見直しスケジュールについて

青木委員

料金の見直しのスケジュールについてお聞きしたいのですが、青色の部分はすでに作業が終わっているということなのですが、実際に新料金が開始されるまでの間に想定外のことが起きたり、作業の見直しが必要になったりする可能性があるかと思うのですが、すでに決定していることを段階的に見直すという作業が、令和7年までの間に盛り込まれるのか、それともすでに決まってしまったことは、それを前提に料金改定が進められるのか教えてください。

総務課長

これから改定に向けて、すでに決定したものは既定のまま行くのかということだと思いますが、今のスケジュールでは、来年の9月議会へ諮る予定で作業を進めているところです。議案として提出した後は中身を変えるというのは非常に難しいですが、それまでは、特に今年度の間はいろいろ皆さんからご意見を伺う機会もありますし、その途中、パブリックコメントも予定しております。その過程の中であれば、一度、案としてお示ししたあとであっても、皆さんのご意見を聞きながら、状況の変化に応じて対応するという事も十分考えられますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

鶴ヶ谷委員

下水道の工事の進捗率はどのくらいになっているのか。何年度までに完了する計画になっているのでしょうか。

工務課長

下水道の普及率は97.66%、およそ98%です。現在は、新設の工事

よりも維持管理の工事がメインとなっております。地震があっても壊れないような管にする工事です。耐震化率というものがありまして、全体延長のうち、耐震管へどのくらい更新しているかという率が34.4%。管路全体でいうと1,001.5キロメートル、約1,000キロメートルですが、そのくらい管路の延長が市内にございます。そのうち、耐用年数超過、下水道の管はこのくらいなら地震とか起きても耐えられますよという年数を超過している管が37,907メートルありまして、管路全体としては、老朽化率は3.79%、その中には小規模の農業集落排水、郊外の方の管路も含まれているのですが、だいたい市街地にある管だけで計算しますと、4.82%です。耐震化は費用もかかりますし、あまり進んでいないということになっております。

鶴ヶ谷委員

では、老朽化によって、今後もそのような工事はますますやっつけなければだめなのですが、下水道の工事が完全でも、果たしてこれを使っている人が少なくなっている。空き家や高齢者世帯があれば、いくら工事が進んでいても、それらのことに関しての広報活動をやられる計画はしているのですか。下水道の工事が完了しているので、衛生的にもよい下水道を使用してくださいと。そうしなければ下水道の収入は上がらないし、そういうのがだんだん使用料の値上げにも繋がってくるのではないかと思います。

営業課長補佐

下水道の水洗化率ですが、令和4年12月末現在で、弘前市では91.6%です。下水道につないでいない人が8.4%という状態です。広報活動として、新たに処理開始をする地域の方には資料を個別に郵送します。また、市のホームページや広報紙で下水道の接続に関するお知らせも載せております。そのほかに、処理開始済で未接続の方には数年に1回ですが個別に訪問し接続を促進する活動もしております。これはできるだけ面談して、下水道について説明し、つないでくださいという広報活動をしています。

引間委員

個別に訪問して、下水道につないでくださいねということで、いろいろやっつけているということなのですが、実際にその中で、つながない方はいらっしゃるのですか。その理由も教えていただけますでしょうか。

営業課長補佐

つながない方はいらっしゃるしまして、金銭面の事情や、高齢者世帯ということで、つなげないという方はいらっしゃいます。

飯島会長

PRについては今後もよろしくお願ひします。一層広げていくことも必要かもしれません。

弘前市下水道事業アセットマネジメント概要

藤田委員

事故が起きる可能性が高い施設から優先的に改築するというお話でしたけれども、例えばどのような災害があった場合に事故が発生するものなのでしょうか。昨年の8月の大雨の災害のときにはそのような事故が発生したのでしょうか、また東日本大震災のときも何か発生したのでしょうか。

企画係長

管路に関しては、処理場まで下水を処理できるということが必要になってきますので、そういった管路というのは優先順位が高いと評価しています。処理場までの主要な管路と、実際に口径が大きい管路というのは重要であり、優先順位が高いということになっております。

下水道施設課長

事故というのは、まず、下水道施設ですね、大きく、下水道管と処理施設と大きく2つに分類されます。下水道の管に関しては、道路陥没が一番事故になる確率の高い事象です。令和2～4年で、だいたい市内では平均34件の苦情、要望があり、発見されています。いずれも重大事故にはつながっていませんが、その都度、職員が現場に出向いて確認して、陥没の原因が何か、マンホールの蓋からカメラを入れて中の状況を確認して、下水管に穴が開いて、道路の砂や碎石が下水管に流れ出して陥没ができたということであれば、すぐに掘って復旧しております。

そして、処理施設、汚水をきれいな水に浄化する施設についてはやはり先ほども委員の方から、東北の震災や大雨のお話がありましたけれども、その際に、何が一番の重大事故になるかといいますと、地震によって施設そのものが倒壊してしまう。また、大水であれば、一番雨のときに困るのは、電源です。処理する施設には電気が必要です。処理するための機械やポンプはすべて電気で稼働していますが、それがストップしてしまうのが、私ども管理をしている立場からいいますと一番重大だと考えております。その辺を考えまして、来年度から処理施設の耐震・耐水化事業を進めたいと考えております。

ただ直すのではなくて、費用が掛からないように、長寿命化できる

ような施設に生まれ変われるように考えております。

引間委員

実際にこういった様々な課題があることをどのくらい市民に伝えているのかということをお教えいただきたいと思います。先日の土曜日にヒロロで水道週間のイベントがあって、行ってみたのですが、そこで、こういった情報を見た気がしなかったもので、質問させていただきます。

総務課長

どういうことにお金がかかっているのか、管の状況についても、これまで十分な広報はしてこなかったもので、実際管の中の状況や、なんのために管の更生をやっているかなどの発信を考えていきたいと思っています。

引間委員

私たちにとって水は本当に当たり前前に生活にあるものですが、こういう課題があることやこんなに老朽化していることなどは知らないもので、たぶん知るといろんなことを考えるきっかけにもなると思いますので、ぜひよろしく願いいたします。

佐々木委員

将来の需要予想で、こんなにも右肩下がり下水道使用料の収入が減るのだなということに驚いていました。この使用料収入を見ますと、令和3年で30億切るくらいの使用料収入とありますけれども、前の資料、「水道料金及び下水道使用料見直しスケジュールについて」の下水道事業会計の純利益の推移のところ、3年度決算を見ますと、事業収益が52億となって、下水道の事業収益はほとんどが使用料ではないかと勝手に思っていたのですが、事業収益が52億円で使用料収入が30億となると、残りの20億は何の収入なのかと思ひまして。そのところをお教えいただければと思います。

経理係長

主なものは、一般会計からの繰り入れです。総務省で定めた一般会計の繰入金というものがあまして、雨水処理は公費負担、汚水処理は私費負担、つまり使用者からお金をいただくという原則がありまして、雨水処理については、総務省が定めた一般会計の繰入基準に基づいて一般会計から、下水道会計に繰り入れをしているものを収入として扱っております。

佐々木委員

そちらの収入は、使用料のように極端に右肩下がりになるということでもないということでしょうか。雨水処理といえ、雨の量がそんなに減るわけではないと思われませんが。

経理係長

減少すると見込んでいます。雨水処理だけではなくて、下水処理場の維持管理の費用も含めてですので、維持管理に係る経費が減少すれば、必然的に一般会計からの繰入金も減少することとなります。

佐々木委員

長期的な改築事業シナリオと財政シミュレーションの概要を見ると、このシミュレーションの結果を見れば、やはり値上げなど無しではなかなか厳しいのかなという感じで見えておりました。12頁と13頁、両方シミュレーションが付いていましたけれども、12頁は値上げを一度にやればこうなるというもので、13頁は段階的に令和7年から3年ごとの見直しで17年以降5年ごとに少しずつ上げたときはこうなるというものだと思うのですが、一度に上げた場合でも、令和17年以降は何回か段階的に上げるというふうに見受けられますが、そういう理解でよろしいでしょうか。

企画係長

一度に使用料を見直ししたとしても、長期的には5年程度で見直しをかけていかないと経営が成り立たないというシミュレーションになっております。

菊池委員

下水道の問題は全国的に見てもどこの自治体も共通の課題をもっているのかなと思っています。その中でも、上下水道に関して、弘前が特別に抱える課題として特筆すべきものはどういうところがあるのでしょうか。

下水道施設課長

弘前特有の課題というのはあまりないと思います。全国的にどこの自治体も同じだと思います。課題として私たちが考えているのは2つあります。

1つは今後における下水処理と施設の在り方の方向性を見極めます。まず、人口減ということなので、今までどおりの方法で、今までどおりの施設で下水道事業を継続するというのは違うかなというふうに考えています。そして、下水処理の在り方については、人口減がありますので、その方向性を考えまして、広域化や共同化による施設

の統廃合、または一部既存のストックの最適化をして、これによって処理場を統廃合したり、あるいは農業集落排水の公共下水道への接続。そのほか、住んでいる人が少なくなっているのであれば、処理区域を狭めてもよいのではないかというのも1つの考え方であると思います。一部の地域では、処理施設ではなく、毎戸に合併浄化槽で集団の処理方法から、個別の処理方法にしていくことで、維持管理コストを下げたりするのも1つの選択だと思っております。施設の必要性については、地域の実情にあった下水道の選択をしていきたいと考えています。また、施設の在り方なのですが、先ほどもお話しましたが、昨今、激甚化、頻発化する災害が続いています。県や国からも強靱な下水道というものを構築する必要があると指導されていますので、そういう災害対策です。そういう災害対策に速やかに取り組んでいきたいと考えております。

2つ目は、老朽化は止められませんので、改築する費用、財源を確保するということが大きい課題だと考えています。市の下水道使用料が減っていますので、いわゆる財源は国庫補助金などを活用して財源を獲得して改築費用を捻出してアセットマネジメントの計画を実行していきたいと思っております。まずは財源と施設の在り方、処理方法の在り方が大事だと考えております。

菊池委員

弘前において特別な課題はないとのことでしたが、全国の自治体が共通した課題を抱えているのであれば、なおさら、情報共有といえますか、県レベル、国レベルでの協議というものも必要になってくるのかなと思います。もちろん、弘前市でも、こういうふうにマネジメントを作って検討するのもそうですが、それ以外の自治体の取り組み、先進事例などを参考にする必要はないかと思いました。

青木委員

ご説明を伺って、予算に限りがある中で、リスクの高いところに事業を集中させなければいけないこととか、経営の効率化を図らなければいけないということがよくわかりました。効率化を図るという意味で、一つの方策が、9頁の管路施設の改築工法に「管渠更生工法」を取り入れるということですが、この管渠更生工法はそれを取り入れることによって、耐用年数がどのくらい増えるのか。そして、もう1つ、弘前市の場合はコンクリート管が特に年代が古い工事に使われているようなのですが、コンクリート管であっても、塩ビ管であっても、この手法が有効なのかどうか。お聞きしたいです。

工務課長補佐

管渠更生につきましては、コンクリート管の内面に新たに管を構築

していくという工法を取り入れています。塩ビ管に関してはまだこのような工法がなく、開発されていないので、塩ビ管の更生は対象の施設としてとらえていません。コンクリート管の中に新たに管を構築した場合は、塩ビ管と同じ耐用年数になりまして、国の方では、だいたい50年程度である指標を公表しています。

飯島会長

コーティングというのは何ミリぐらいでしょうか。

工務課長補佐

コーティングの厚さは管の大きさによって変わってきます。80センチメートルの管の場合、2センチメートルくらい入るので、76センチメートルくらいに小さくはなります。小さくはなるのですが、コンクリートの摩擦と、内面にプラスチックをかけたときの摩擦は、プラスチックの方が流れやすくなるので、断面は小さくなりますが、流れる量は少し多くなります。

飯島会長

そういうのは関心を持たれるかはわからないですが、PRの際に興味を持たれるかもしれないですね。

工務課長補佐

全国的に今こういう工法が流行していて、デモカーなどがどんどんPRとして使われているので、水道週間や下水道をPRする場面で少しずつでも紹介していけたらと思います。

飯島会長

雨水の場合は、別の管で別の処理をされているという理解でよろしいでしょうか。これを聞く理由というのが、3、4年前に駅前地区が水浸しになったことがありまして、たぶん雨水の処理が追い付かなくてということだと思のですが、あの後、頻発はしていないので良いのかなと思う反面、温暖化によって、かなりゲリラ豪雨も懸念されますので、雨水処理と汚水処理がどうなっているのかなということをお聞きしたいと思います。

下水道施設課長

弘前の場合は雨水も汚水も一部同じ管で処理しております。単独の公共下水道についてはですね。それ以外は、雨水は道路側溝や河川に入っていく方式になっています。汚水は汚水だけ運ぶ管で下水処理場まで運ばれています。

	<p>工務課長補佐</p> <p>補足として、駅前地区に関しましては、雨水と汚水を両方流す管で整備されている区域が主になっています。その影響で雨水が邪魔をして溢れるという状況があります。そこを解消するために、いわゆる常習地帯で調査し、溢れそうになれば、違うバイパス管ルートも流れるという工事をやってみました。そのおかげで1箇所だけですが、溢れてしまう状況が改善されたところがあります。</p> <p>飯島会長</p> <p>こちらもぜひPRしていただければと思います。やはり下水が溢れるのはきれいな街ではないと思います。それは絶対にないようにしたいということを皆様にやっていただいていますので、ぜひPRしていただければと思います。</p> <p>7 閉会</p>
その他の事項	<ul style="list-style-type: none"> ・会議は公開。 ・報道機関取材は2社。